レビュー論文

コンクリート工学「レビュー論文

（文献調査委員会）」原稿作成テンプレート

工　学　一　郎\*

　1.　はじめに

1ページの行数は25字×49行×2段組に設定し，168 mm×256 mmの枠内に収まるようにする。本文の級数は9ポイントで印字する。使用する句読点は「，」「。」とし，いずれも全角で使用する。また，原稿のフォントはMS明朝体またはこれに類似したものを用いる。

題目は級数を20ポイント，ゴシック体とし，左右中央に位置するように印字する。

担当著者名は12ポイントとする。左右中央に印字し，著者名の右肩に＊印(脚注)を示す。

1.1 　脚注

第1ページ目の左段下に本文から1行空けてラインを片段端まで引き，その下に著者のよみがな／勤務先，役職名，学部学科名(部課名)，正会員・非会員の区別の順序で印字する。著者のよみがな／所属は級数を7ポイントとする。

　2.　本文について

章の見出しは級数を10ポイントとし，左端から１字空きで印字する。

節の小見出しの級数は本文と同じく9ポイントとし，左端から１字空きで，字体はゴシック体で印字する。

項の見出しは左端から1字空きで，（　）は全角文字を使用する。(原稿作成要領参照)

　3.　図・表・写真について

図・表・写真は本文の説明箇所に近い所に配置し，図・表中の文字の級数は7ポイント，写真の中は8ポイントで印字する。

図・表・写真は本文から1行空けた後に配置し，図・写真の番号・タイトルは，図・写真の下に，表の番号・タイトルは上に記入し，級数は8ポイント，ゴシック体で印字する。

呼称は図-1，表-1，写真-1とし，章ごとに番号を分けずに通し番号とする。

　4.　参考文献

級数を7ポイントとする。引用や参考とした文献名は，使用順に番号を振り，まとめのあとに参考文献としてまとめて掲げる。

文献番号は，本文中または引用した図・表・写真のキャプション(説明文)の最後に上付数字で明記しておく。

記載方法は論文等の場合，著者名(姓名)：題名，誌名，Vol. ，No. ，掲載ページ，発行年の順とし，単行本の場合，著(編)者名(姓名)：書名，掲載ページ，発行所名，発行年月の順とする。

謝　辞　本論文の執筆にあたっては，日本コンクリート工学会文献調査委員会から貴重な意見をいただきました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

1）Davis J. M. ： Simplified Diaphragm Analysis, Journal of Structural Engineering, ASCE, Vol.103 No.1, pp.2093-2103, 1977

2) Shanley, F.R.： Basic Structures, pp.291-304, John Wiley & Sons Inc., 1947

3) 春野秋雄・横田英治：無塩化・無アルカリ型防凍結性混和剤による初期凍害の防止効果，コンクリート工学論文集，Vol.7, No.1, pp.113-122, 1996.1

Title英文題目は級数10ポイントで左右中央に印字。2ページ目下に入れる

# *By I. Kogaku著者名はイタリック体，級数9ポイントで左右中央に印字*

Concrete Journal, Vol.○, No.○, pp○○～○○ Jul. 20○○

**Synopsis**英文概要本文は級数8ポイントで左右空きマスなしで印字する。

**Keywords**：英文キーワードは英文概要の次の行から級数8ポイントで左右空きマスなしで印字する。

2019年5月10日更新

コンクリート工学「レビュー論文（文献調査委員会）」　原稿作成要領

1.　文献調査の趣旨および国内文献の取扱い

文献調査委員会の主目的は，コンクリート工学に関する外国文献の調査を行い，会誌「コンクリート工学」を通じ，その研究・技術の動向を報告することである。この趣旨を読者に正確に伝えるために，報告の「1. はじめに」において以下に示すような文面を記述する。なお，表現については著者に一任する。また，必要に応じて国内の文献を取り上げる場合には，取り上げた文献の内外における位置付けを明記する。

例.

「本稿は，海外における最近のモルタル，コンクリート供試体によるアルカリ骨材反応性の早期判定試験方法に関する研究の動向について報告するものである。」

（古沢孝男：アルカリ骨材反応の早期判定法に関する研究の動向，Vol.29，No.2，1991.2）

「本稿では，アメリカ，カナダで提案されている比較的新しい耐震診断手法を橋りょうの場合を例にとり紹介する。」

（藤波　亘：既設RC構造物の耐震診断手法，Vol.35，No.8，1997.8）

2.　投稿資格

著者は本学会会員に限る。ただし，連名の場合は1 名以上が会員であり，著者の合計は原則として4名以内とする。

　また，投稿する原稿は原則として未発表のものに限る。

3.　原稿の体裁

1編の長さは6ページ以内を原則とし，10ページを最大とする。また，白黒での掲載を基本とする。

1ページの行数は25字×49行×2段組に設定し，168 mm×256 mmの枠内に収まるようにする。本文の級数は9ポイントで印字する。使用する句読点は「，」「。」とし，いずれも全角で使用する。また，原稿のフォントはMS明朝体またはこれに類似したものを用いる。

原稿中で使用する単位は，原則としてすべてSI単位系に統一する。

4.　題目，委員会名，担当著者

題目は級数を20ポイント，ゴシック体とし，左右中央に位置するように印字する。担当著者名は12ポイントとする。左右中央に印字し，著者名の右肩に＊印(脚注)を示す。

5. 脚注

第1ページ目の左段下に本文から1行空けてラインを片段端まで引き，その下に著者のよみがな／勤務先，役職名，学部学科名(部課名)，正会員・非会員の区別の順序で印字する。著者のよみがな／所属は級数を7ポイントとする。

6. 英文

英文題目，英文著者名，英文概要，英文キーワードは2ページ目下に入れる。英文題目は級数10ポイントで左右中央に印字する。英文著者名はイタリック体，級数9ポイントで左右中央に印字する。英文概要本文は級数8ポイントで左右空きマスなしで印字する。英文キーワードは英文概要の次の行から級数8ポイントで左右空きマスなしで印字する。

7. 本文

章の見出しは級数を10ポイントとし，左端から１字空きで印字する。節の小見出しの級数は本文と同じく9ポイントとし，左端から１字空きで，字体はゴシック体で印字する。項の見出しは左端から1字空きで，（　）は全角文字を使用する。

7.1　見出しの順序例

1. ・・・ 章

1.1 ・・・ 節

（1） ・・・ 項

1）

①

ⅰ）

8.　図・表・写真

図・表・写真は本文の説明箇所に近い所に配置し，図・表中の文字の級数は7ポイント，写真の中は8ポイントで印字する。図・表・写真は本文から1行空けた後に配置し，図・写真の番号・タイトルは，図・写真の下に，表の番号・タイトルは上に記入し，級数は8ポイント，ゴシック体で印字する。呼称は図-1，表-1，写真-1とし，章ごとに番号を分けずに通し番号とする。

図表中の説明は，原則としてすべて和訳する。図中に説明のための用語等を追記した場合は，図とキャプションの間に右詰めで「※原図に加筆」と明記する。

9. 参考文献

級数を7ポイントとする。引用したり参考とした文献名は，使用順に番号を振り，まとめのあとに参考文献としてまとめて掲げる。文献番号は，本文中または引用した図・表・写真のキャプション(説明文)の最後に上付数字で明記しておく。記載方法は論文等の場合，著者名(姓名)：題名，誌名，Vol. ，No. ，掲載ページ，発行年の順とし，単行本の場合，著(編)者名(姓名)：書名，掲載ページ，発行所名，発行年月の順とする。

英文の場合，著者名の表記については次のようにする。

著者が1 人：Diamond, S.（姓が先でカンマの後に名前）

著者が2 人：Diamond, S. and Berney, R. S.

著者が3 人：

Diamond, S., Berney, R. S. and Struble, L. J.

著者が4 人以上：

Diamond, S. et al.（1 人目だけ名をあげ，その他はet al.とする）